

その十一

嶺村法子

暮れから一月にかけて、どこの幼稚園でも、コマ回し、たこあげ、はねつきなどお正月の伝統的な遊びを用意していることと思います。私たちの幼稚園では、そのお正月遊びを家族や地域の方とも楽しめるよう、一月中旬に、「わくわくランド」と名付けたお正月遊び大会を実施しています。

各担当が、保育室、園庭、廊下、玄関に分れて、双六、カルタ、トランプ、坊主めくり、将棋、お手玉、けん玉、メンコ、コマ、竹馬、大縄、たこ作り、たこあげなど、自分のやりたいコーナーを受け持ち、子どもたちが自由に回って遊べる環境を用意します。

会議室には、「わくわく茶屋」なる休憩所も出現します。教頭と主事を中心に、十二月の餅つきでついたおもちを、おしるこにしてふるまいます。ホットプレートでこんがり焼いたおもちのいい匂いが園内に漂い、遊びの合間にはと一息つきに来る親子で賑わいます。

たこ作りやコマ回しのコーナーでは、「昔取った杵柄」を披露するおじいちゃんの姿があり、園庭では、ご夫婦ではねつきを楽しんでいる姿もあります。誰もが童心に返ってゆつたりと遊べる一日を用意することが、遊びの伝承や子育ての楽しさにつながれると思います。

三学期の始まりに

山くずしと坊主めくりと

双六作りのコーナーを用意した

幼い日

トミカラひろば



▲親子コマ対決!! ギャラリーに囲まれちょっと緊張……

従兄弟たちと飽きずに遊んだ山くずし
指先に全神経を集中させ

小さな音も聞き逃すまいと聞き耳を立て

慎重に慎重に駒を運ぶ

その緊張感が

カチツ

という音と共に笑い声が変わる

山くずしの楽しさを

子どもたちはすぐに受け入れた

坊主めくりのコーナーでは

ござの上に百人一首の絵札を並べた

三つの山から一枚めくり

坊主が出たら全部もらう

姫が出たら全部手放す

それだけのルールのこの遊びに

みんなすっかり虜になった

ごぎの上の絵札が多くなるにつれ

一枚めくるときの緊張感が増してきて

いつも勝ち気なはずちゃんまでが

「誰か代わりにめくって」

などと言う始末

私もその緊張感に耐えられず

坊主が出るたび大声になる

そしてありちゃんに

「先生、ワーとかキヤーとか言わないで」

と叱られる

そのうち子どもたちは

坊主を引いた友達に

「あけまして、おめでとうございます」

と声をかけ始めた

札をあけたら大当たり！

坊主を引いておめでとう！

その心境をなんと的確に表現していることか

これでもう坊主を引いてもこわくない

緊張感を笑いに変えるたくましさで

子どもたちは

坊主めくりを自分たちの遊びにしていた

“わくわくランド”の坊主めくりコーナーは

お父さん、お母さんを巻き込んで

ひときわにぎやかな笑い声に満ちていた

もうひとつ

“わくわくランド”で人気だったのは

なかなか上がれない《うみぐみすごろく》

縄跳び十回とか

ジャングルジムまで行って来るとか

豚の真似をするとか

様々な難関を突破して

「あと少しで上がり！」というところで

《すたーにもどる》

トミカラひろば



▲キャー!! 〈すたーともどる〉だあっ!

という非情な一コマが：

「先生、この双六、上がれないんですけど」
とぼやきながら

最後まで付き合ってくださいだったお母さん

子どもたちは

自分たちが作った双六で

大人と対等に渡り合えたことに大満足

こんな ゆったりと双六で遊べるのも

「わくわくランド」ならではのことでしょう

幼稚園で大好きな人と一緒に心ゆくまで遊んだ経験が家庭での遊びを豊かにし、さらに伝承遊びの楽しさが次の世代へと引き継がれていくきっかけになればと思う。幼稚園の果たす役割の大きさを自覚し、子どもも大人も一緒に楽しめるひとときを作っていきたい。

(中央区立月島第一幼稚園)